# 4 1 生物多様性の保全に関する「愛知目標」の達成に向けた 取組について

(財務省、環境省)

## 【内容】

- (1) 「愛知目標」の達成に向け、世界の生物多様性保全に積極的に貢献 するとともに、国内における生物多様性の重要性の理解や認識を高 め、その保全の取組に対する機運の醸成に積極的に取り組むこと。
- (2) 生物多様性地域戦略策定、地域における活動及び「生物多様性自治体ネットワーク」の充実・発展への支援等、自治体の取組向上に向け、 国として積極的に取り組むこと。
- (3) 生物多様性損失の防止に向け、開発に伴うミティゲーション措置の具体化に向けた取組を推進すること。

#### (背景)

〇 生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) で採択された「愛知目標」は、世界の生物多様性を保全するための重要な目標である。

本県は、「愛知目標」の達成に貢献していくため、今年8月に生物多様性保全に先進的に取り組む世界のサブナショナル政府と立ち上げた「愛知目標達成に向けた国際先進広域自治体連合」により、今年12月のCOP13において、フォーラムの開催や共同声明の採択・発表を行い、世界の生物多様性保全の活性化に貢献したいと考えている。

- 国においても、「愛知目標」の達成に向け、国際社会における一層の取組の推進は もとより、国内において生物多様性の重要性に関する理解や認識を高め、その保全 に対する機運の醸成を図ることが必要である。
- 生物多様性保全を地域に根付かせ、具体の活動を促進するには、自治体の役割が 一層重要であり、戦略の策定や戦略に基づいた市町村等の取組に対する国の財政的 支援が必要である。

また、自治体間の連携・交流を目的として、国や本県等が主導して設立した「生物多様性自治体ネットワーク」の活動を充実・発展させるため、引き続き国としても積極的に取り組むことが必要である。

○ 本県では、「愛知目標」の達成に向けた行動計画として「あいち生物多様性戦略 2020」を策定し、生態系ネットワーク形成とミティゲーションの仕組みを組み 合わせた「あいち方式」を戦略の中核的な取組と位置付け、推進している。

国は、平成26年6月に「日本の環境影響評価における生物多様性オフセットの実施に向けて(案)」を取りまとめた。今後、「生物多様性オフセット」の導入に向け、さらなる取組を推進し、開発に伴うミティゲーション措置の具体化に向けた取組を推進することが不可欠である。

## (参考)

## ◇ 「あいち方式」による生態系ネットワークの形成

- 県民、事業者、NPO、行政といった地域の**多様な主体が共通の目標のもとにコラボレーション**しながら、効果的な場所で生物の生息生育空間の保全・創出
- 生物多様性への意識を高め、人と人とのつながりを育みながら「生態系ネット ワーク」の形成を推進
- 「人と自然が共生するあいち」を実現する、「**あいち生物多様性戦略2020」 の行動計画を統合的に推進・実現**していくための仕組み

#### ●生態系ネットワーク

・開発等によって分断された自然 を、在来種による緑地や生物が生 息するのに適した水辺を適切に 配置することによってつなぎ、地 域本来の生態系を保全・再生す る。

#### ●あいちミティゲーション

・開発に伴う影響の回避·最小化·代償にあわせた、開発区域内外での自然環境の保全·再生を促す、全国初のしくみを導入。

# あいち方式

## 生態系ネットワーク

多様な主体が、地域の協議 会などでのコラボレーショ ン(協働)により、生物生 息生育空間を確保する方法

# あいち ミティゲーション

開発などにおける、自然 の保全・再生とネットワ ーク化を進める方法

## 生物多様性 ポテンシャルマップ

生態系ネットワークチェックリスト

目標 (グランドデザイン) を 共有するツール あいちミティゲーション 定量評価手法

簡単なチェックで 効果的な取組を実現するツール

#### ●生物多様性ポテンシャルマップ

- ・生きものの生息適地を図示。 (全国初)
- ・多様な主体による自然環境の保 全・再生の目標の共有に活用。

#### 取組の成果を見える化するツール

#### ●あいちミティゲーション定量評価手法

- ・取組の成果を「見える化」するための 共通のものさしを提供。(自治体として全 国初)
- ・開発時の回避・最小化の検討にあたって、複数案の比較が容易になる。

### ●生態系ネットワークチェックリスト

・多様な主体による生態系に配慮した 取組の確認と気づきを促し、コラボレ ーションを進めていくためのリストを 提供。